

平成 20 年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時 平成 2 0 年 5 月 2 8 日 (水)

午後 3 時～ 4 時 4 5 分

場 所 柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

木下百合子、塚口義信、綿貫友子、山崎裕行、今西美和子、

蓑原 正

事務局

三浦 誠教育長、前 芳治教育部長、村井義和社会教育課長、

脇田直行課長補佐、北野 重主幹兼文化財係長、

酒谷健藏歴史資料館館長、安村俊史歴史資料館学芸員

欠席委員

和田晴吾、明石道夫、富尾昌秀、渡辺宏治

記録：安村俊史

1. 開会

酒谷館長：只今より、平成 20 年度柏原市立歴史資料館等運営協議会を開催いたします。本日は、委員のみなさま方におかれましては、公私何かとご多忙のなか、ご出席いただきまして本当にありがとうございます。私は当館館長の酒谷でございます。会長が選出されますまでの間、私が進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。それではまず始めに、三浦教育長からご挨拶をお願いします。

2. 教育長挨拶

三浦教育長：委員のみなさまにおかれましては、たいへんお忙しいなか、歴史資料館等運営協議会の平成 20・21 年度の委員をお引き受けいただき、また本日の会議にご出席いただきありがとうございます。本協議会では、歴史資料館並びに史跡高井田横穴公園について、いろいろとご意見を賜りたいと思います。本日は平成 19 年度事業報告ならびに平成 20 年度事業計画につきまして、事務局から説明を申し上げますので、どうぞ忌憚の無いご意見を賜りたいと思っております。簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきますと思います。

3. 委員紹介

4. 事務局紹介

5. 議事

(1) 会長・副会長の選出について

酒谷：それでは、議事の第一番目、会長・副会長の選出に移りたいと思いますが、今年は委員の改選の年でございますので、会長・副会長の選出をしなければならないのですが、選出の方法はどのようにさせていただきますでしょうか。

養原委員：事務局一任。

酒谷：ただいま事務局一任というご発言がございましたが、事務局からご指名させていただいてよろしいでしょうか。

各委員：異議なし。

酒谷：それでは、事務局からご指名させていただきたいと思います。会長に塚口義信委員、副会長に本日ご欠席ですが、和田晴吾委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。只今のご指名でよろしければ、拍手でご承認いただきたいと思います。

一同：拍手

酒谷：それでは、塚口会長にバトンタッチしたいと思います。初めに会長の挨拶を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

塚口会長：それでは、一言だけご挨拶申し上げます。若輩ではございますが、みなさまのご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

（２）平成 19 年度事業報告

塚口会長：それでは、平成 19 年度事業報告につきまして、まず、歴史資料館学芸員の安村さんをお願いします。

平成 19 年度事業報告・歴史資料館関係 安村
報告内容については、資料 P 1～17 参照

塚口会長：それでは、引き続きまして横穴管理運営関係につきまして、文化財係の北野さんをお願いします。

平成 19 年度事業報告・横穴管理運営関係 北野
報告内容については、資料 P 18 参照

塚口会長：ただいまのお二人からの平成 19 年度事業報告につきまして、何かご質問・ご意見はございませんでしょうか。ございませんでしょうか。それでは、次の平成 20 年度の事業計画のご報告のあとに、またいただきたいと思います。それでは、平成 20 年度事業計画につきまして、歴史資料館の安村さんをお願いします。

（３）平成 20 年度事業計画

平成 20 年度事業計画・歴史資料館関係 安村
報告内容については、資料 P 19～21 参照

塚口会長：続きまして横穴管理運営関係について北野さんをお願いします。

平成 20 年度事業計画・横穴管理運営関係 北野
報告内容については、資料 P 22 参照

塚口会長：ご報告いただきました平成 19 年度事業報告ならびに 20 年度事業計画について、何かご質問・ご意見等はございませんでしょうか。

養原委員：資料館では、たいへん多くの事業を一人でこなしていらっしゃるので、これ以上の要望は申し上げにくいのですが、昨年度は新聞等で一部取り上げられたこともあり、ずいぶん大きな効果があったように思います。今後もメディアを積極的に利用していただきたいと思います。もう一点、運営協議会の委員に市民代表委員の数が少ないのでは

ないでしょうか。以前はもっと多かったはずで、市民の資料館に対する愛着を高めるためにも市民代表委員をもう少し増やしてほしいと思います。

三浦教育長：今後２年間は今回の委員でお願いしたいと思います。市民代表委員の件につきましては、次回以降の検討課題とさせていただきたいと思います。

養原委員：できるだけ市民参加の機会を増やしてほしい。今回は公募されましたが、公募の方法・条件も厳しいのではないのでしょうか。ぜひ、見直していただきたいと思います。

綿貫委員：前回の会議のときに、充実した資料をお持ちなので、ぜひ多くの研究者にも見学していただけるよう配慮いただきたいと思います。それが「河内六寺の輝き」に反映されているように思ったのですが、研究者の方、地元以外の方の見学も多かったのでしょうか。

安村：確かに「河内六寺の輝き」では、多くの研究者が見学に来られましたし、市外からもたくさんの方々に来館いただきました。

綿貫委員：とくに古代の資料は豊富なので、各世代が楽しんでもいただけるのはもちろん大切なのですが、研究者らにも積極的に活用していただけるよう進めていただきたいと思います。それと、横穴の保存計画を進められているということですが、この事業を実施した後、その後の公開などの活用面はどのように考えておられるのでしょうか。

北野：現在、船に乗る人物の壁画のある横穴についての保存事業を進めております。今年度は横穴周辺の樹木の伐採を計画しております。伐採は樹木の生長を抑えるようなものを考えております。また、横穴の崩れている部分について、樹脂で補強する計画をしております。さらに階段の角度を緩やかにし、横穴への水の浸入を防ぎ、周辺樹木が倒れるのを防ぐような工事を考えております。今年秋の公開については、実施できるかどうか微妙な状況です。委員会を設置しておりますので、委員会の意見も参考にしながら、決めてまいりたいと考えております。なお、来年度は工事が本格化しますので、来年度は１年間公開できない可能性があります。ただ、その他の横穴については例年どおり公開していこうと考えております。

綿貫委員：せっかく資料館にはレプリカもありますので、レプリカで本物を体感できますよということを、もっとアピールしたほうがいいのではないかと思います。

養原委員：５月の公開は、どれくらいの見学者があつたのですか。

北野：約 220 名です。これだけの人が来られると、職員だけの対応がたいへんな状況でした。例年実施してきた「むかし体験」は、工事が始まることもあり、今回は公開のみの対応とさせていただきました。

木下委員：初めて委員をさせていただき、たいへんな事業をされているのだということがよくわかりました。私は教育学を専攻している関係で、大和川付け替え 300 年のさまざまな事業にも学生とともに参加させていただきました。そういうこともあり、博学連携ということには強い関心があります。そのひとつとして、資料館・文化財などとどう関わっていくかということも大きな関心があります。さきほども市民参加という話があり

ましたが、市民が郷土の文化を誇りにもち、愛着をもてることが大切だと思っております。そのために、このような資料館が大きな役割を果たすのだと思います。子どもたちも、ここへ来て私たちの柏原市がこんな歴史をもっているんだ、こんなすばらしいものがあるんだと感じれるような施設であってほしいと思います。そのためにも、子どもたちも参加できるような企画も考えてもらいたいと思います。また、教育大の学生がとてもお世話になっているようで、ありがとうございます。

山崎委員：小学校の代表として、いつもお世話になっております。4年生で大和川の付け替え、3年生で昔のくらしを学習し、資料館を活用させていただいておりますが、最近では教室での授業に力を入れるような指導もあり、資料館などの活用が減る傾向がありますが、今後も積極的に利用させていただきたいと思います。ここへ来ることによって、先ほどの話にもありましたように、子どもたちも誇りをもちます。それから、教員もここへ来て勉強するべきだと思いますが、幸いに初任者研修の受け入れなどで協力させていただいており、感謝しています。小学生とともに市民のみなさんに喜んでいただけるような資料館であってほしいと思います。

木下委員：今、小学生の見学という話があったのですが、中学生や高校生の利用状況は、いかがでしょうか。

安村：中学生の職場体験以外には、ほとんど利用がないというのが現実です。職場体験で、どんな仕事をしているのですか、というような利用です。それ以外には、ほとんど利用がありません。

養原委員：中学生・高校生には、ぜひここへ足を運んでもらってほしいと思いますが、むずかしいですね。親子歴史教室のような企画もいいのではないのでしょうか。

綿貫委員：私は柏原の史跡マップを授業に利用して、学生に柏原にはこんなすばらしいところがあるんだということを知ってもらっています。学生も驚くようです。安村さんにも非常勤で考古学の授業をお願いし、柏原の歴史に対して、少しでも学生に興味をもってもらえるようになっているのではないかと考えております。

今西委員：私は近所に住んでいる関係で、歴史資料館はたびたび利用させていただいておりますが、興味をもっている方はとても利用されて、非常に興味・関心をお持ちのようです。でも、近所の人でも知らない人もいます。私が、そのような方とのパイプ役になればいいなと思っております。みなさんに親しんでいただけるような資料館であってほしいなと思っております。

塚口会長：私からもよろしいでしょうか。これからは、団塊の世代が定年を迎える時代となります。その方々が柏原を歩いてみたいなというときに、案内していただけるような方がおられればいいなと思います。聞くとおところによりますと、柏原の郷土史を学ぶ会というのがありまして、ボランティアガイドを始めようという動きがあるようですが、その方々とこの資料館との関係はどうなんでしょう。

安村：ガイドのための資料や見学地の推薦などの情報提供は、積極的に行っております。

ただ、あくまでも自主的に実施されるということなので、自主性を尊重して、こちらはアドバイスをするという形で協力させていただいております。

塚口会長：市民が自分たちの資料館だという意識をもてるよう、この協議会でも考えていく必要があると思います。次に、この資料館の大きなテーマである大和川について、古い写真を集めてはどうですかと、以前に提案したことがあるのですが、その点はどうなっているでしょう。写真などは、失われるばかりですからね。

安村：古い写真はできるだけ集めるよう努力しておりますが、十分な状況ではありません。

脇田：古い写真については、大和川に限らず、市の広報広聴課が以前から集めておりまして、年に1回写真展を開催しております。今年度は市制50周年ということでもあり、積極的に市民に呼びかけて収集し、近々展示が行われます。

安村：当館で保存している写真についても、広報広聴課へ提供しております。

塚口会長：写真は、今のうちに保存しておかなければ、失われる一方なので、この機会にぜひ集めておいてもらいたいと思います。

酒谷：大阪府の文化財関係施設の廃止・統合という方針が、柏原市にも影響を与える可能性も考えられます。財政的な面では、文化施設の廃止がよく取り上げられるのですが、今後、このような施設をどのように位置づけていけばよいのか、何かご意見がございましたらお聞きしたいと思います。

養原委員：この館は柏原市の直営ですよ。それならば、問題ないのではないのですか。

酒谷：大阪府の問題が、柏原市の財政状況によって当館にも影響を与える可能性があるのではないかということです。

養原委員：これらの施設の生き残り策というのは厳しいでしょうね。でも、それほど心配することもないでしょう。

酒谷：このような問題が出てくるということ自体が、これらの施設の弱い立場を示しているように思うのですが。

養原委員：それは、文化・スポーツは経費がかかるばかりだから、弱い立場には違いないですよ。

綿貫委員：考古学・文献史学の研究者をはじめ歴史学関係者が、府の対応如何で、この問題が全国に波及するのではないかと危惧しております。そこで、学会が反対声明を出したり、署名活動なども実施しておりますが、先ほどのように理念だけではやっていけないところもあり、維持することの重要性が府にどれだけ理解され、尊重されるか、教育や文化事業は、経済効率では計れないもので、すぐに結果が出るものではないと思います。時間のかかることかもしれませんが、存続に向けての運動を続けていく必要があると思います。

養原委員：文化・スポーツを大事にしようという市民運動を継続していく必要があるでしょう。でも、どこかで縮小もやむを得ない部分はあるでしょうね。

木下委員：文化施設が維持されるかどうかというのは、その施設がどれだけその土地の人

たちの中に根付いているかどうかというのがあると思います。箱物だけだとやはり厳しいと思います。その点で、この資料館が大和川水系ミュージアムネットワークをつくられました。また、最近大和川ネットワークもできております。そこで大和川のあらゆるものの資料収集をやっておられる。このようにネット化していく。この館はその拠点としての位置にあるので、今後、そのような位置づけをしていくことも必要だろうと思います。

塚口会長：この資料館は、規模の割には入館者が多く、学芸員がたいへんがんばっておられると思います。展示や活動を見ると、それがよくわかります。

養原委員：府立近つ飛鳥博物館は一須賀古墳群、弥生文化博物館は池上曾根遺跡の遺跡博物館であり、柏原市には高井田横穴群がある。各市の歴史資料館はその地域の歴史的遺物を展示し、保存する役目があり、入館料をとって経営するようなものではないのですよ。企画展もやっていますが、どっと入場者が押し寄せるものではありません。

塚口会長：文化遺産というのは、引き継いでいかなければならないものだと思います。私たちの時代で、なくしてしまっているものではないのです。柏原市にとって、この資料館は無くしてはならない施設です。財政的な問題は出てくると思いますが、それに妥協してはいけないと思います。

酒谷：どうもありがとうございました。

塚口会長：それでは、予定の時間をかなり過ぎておりますので、これで終わりにしたいと思います。それでは、司会を事務局のほうへ、お返ししたいと思います。

酒谷：本日は、長時間にわたりまして、貴重なご意見を賜り、本当にありがとうございました。これからもさまざまな問題があるかと思いますが、今後ともご指導をお願いしたいと思います。本日はご多忙の中、本当にありがとうございました。

(終了 4 時 45 分)